

2025年6月12日

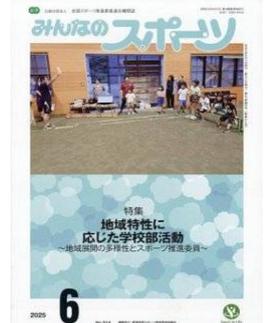
『みんなのスポーツ』6月号(No.514)から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の6月号は「**地域の特
性に
応じた
学校部活動**」の特集号です。

私の視点で気づいたこと・感じた事、参考になる点を4点記載します。



- (1) 一番に印象に残ったのは「事務局だより」です。事務局長の細矢さんとは「スポーツ推進委員ハンドブック」のことについて電話で何度かお話をさせていただきました。また、リーダー養成講習会に出席した時に声をかけていただいたことが思い出されます。退任されるということですがありがとうございました。今回の記事の中に書かれていることで、2点共感しました。①スポーツ推進委員を「活用使用しよう」という視点からではなく、**活用できるように「制度を整備する」視点が大事**。②推進委員に期待されることは、「資格の有無」ではなく、**「信望」ではないか。「あの人に頼めば何とかしてくれる」これは大事**なことだと考えます。信望ある人を増やしていきたい。
- (2) **質問玉手箱「熱中症」** 地球温暖化の影響か、気候変動が不安定でここ数年来、猛暑が続きます。関わっているスポーツの場面でも観光ボランティアの面からも本当に気配りをしています。私は昨年も大学の講座を受講、来週(16日)には日本赤十字社の方に来ていただき講座を受講*します。今月号の本冊子にもコンパクトに基礎知識とその対策方法が書かれていました。講座や本冊子で得たこと他含め関心を持って取り組んでいきましょう。

*16日の講座で気づいたこと・学んだことは別途報告致します

- (3) **連載;若手委員の『リアルな声』から『スポーツ推進委員のミライ』を考える** 和歌山県北山村～この記事を含め2例が紹介されていたが読んで感じたことは、人口は380名の村、推進委員が3名。スポーツ推進委員歴は12年の33歳の方が全国リーダー養成講習会に受講して「これではいけない」と衝撃をうけ取り組んだ挑戦のことが書かれている。生まれは隣村お父さんが中学校の校長で知っている方もあったが、村に住むようになったのは村役場に就職してからのこと。**村民の方と顔を合わせる機会が多い事、情報伝達も早い・横のつながりがある**。この良い点を活用して取り組まれた。**公民館のポッチャ大会には保育園児から70・80歳代の方が毎回40～50人も参加。続けて新任研修会、体力測定会と計画、そのために関連するほかの団体と連携**を取りながら行っている点はすごい！！この行動力は見習いたい。今回の事例はいずれも地域の特性に応じてできることを考えている。

(4) **連載:キャリア処方箋 老後の安心はお金だけじゃない。「関係資産」で豊かな人生を築こう**
小さな関係資産を少しずつ築いてきた方が退職後、何をしようと考え自宅近くから聞こえる朝のラジオ体操に通い始めた男性の事例。毎朝「おはよう」と声をかけてもらえるだけで、「ここにいていい」と感じられるようになったとの事。また、体操が終わった後、ちょっと立ち話をするだけで、その日が穏やかな日になるという方も。昨年の夏休み以降、私は地域の12ヶ所に午前中予定のない日に巡回しているが上記のような話はよく耳にした。全く同感。
地域を歩いていると声をかけられることが多くなった、あなたのことを気にかけている、あなたも私のことを気にかけてくれるでしょと言われることも。**相互のまなざしは人生後半にこそ大きな宝**だと思っています。上記を通じて地域体育振興会の行事に参加や困っている時には手伝っていただけの方が増えてきました。皆さんも同じような経験されていませんか？

今月号では4つの事に記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことのできることから始めて(行動)みませんか？

* **本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがある**ように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。**問題意識や感度を高めていくと紹介されている事例が使える場合と横須賀ではこのままでは使えないがこうすればできる。**こんな方法もあるなど20年近く購読していて思います。特にここ1、2年で**冊子内容が読者参加型の編集**になりました。

活動は是非一緒に取り組んでいきましょう！

以上

